令和６年度発達支援児保育研修会

特別支援教育研究所凸DECO　代表：間宵克弘

宇都宮市子ども部保育課主催

今日の内容

■勝手に巻頭言
■自己紹介
■特別支援教育クイズ
■特別支援教育とは
■発達障害とは
■発達の最近接領域とは
■問題行動を氷山モデルで考える
■応用行動分析について
■集団行動への参加と個別対応について
■「気になる子ども」の保護者との連携
■まとめ
■おまけ１・２
■参考・引用文献

勝手に巻頭言

「僕は、食事をする時には、ご飯から先に食べます。（中略）ご飯を食べ終わったら、次におかずを一種類ずつ食べます。ひとつのおかずを食べたあと、次のおかずを食べるという風に、順番におかずだけを食べるのです。汁物もおかずのひとつなので、汁物を全部食べ終わるまでは、他のおかずは食べません。（中略）どうして、ご飯とおかずを交互に食べず、そんな食べ方をするのかというと、僕は口の中で、いろいろな味が混ざるのが嫌いだからです。」

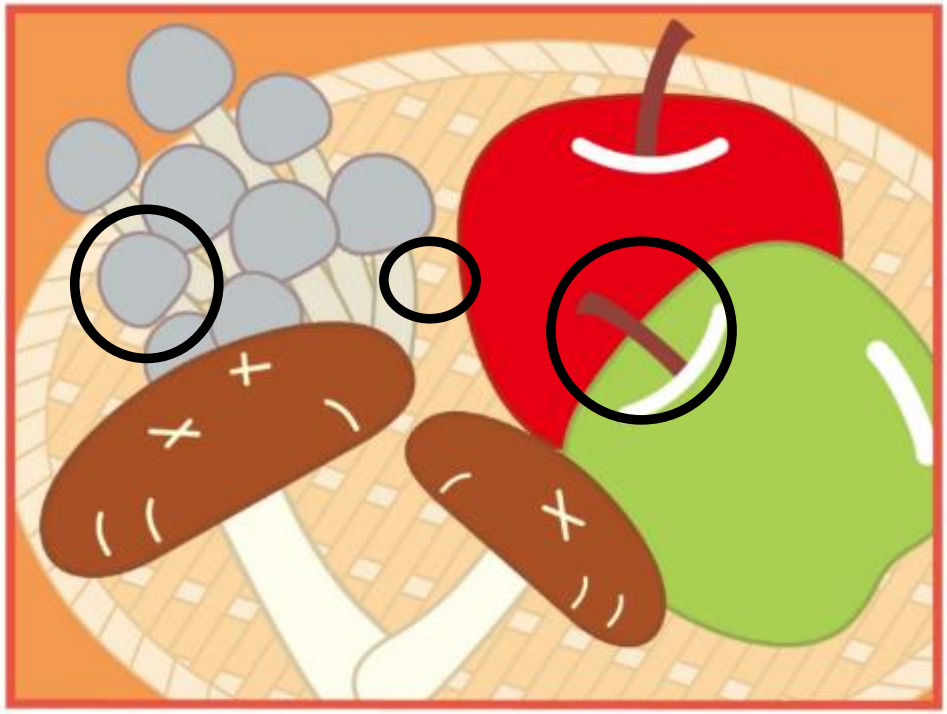
『自閉症の僕の毎日』東田直樹（KADOKAWA）

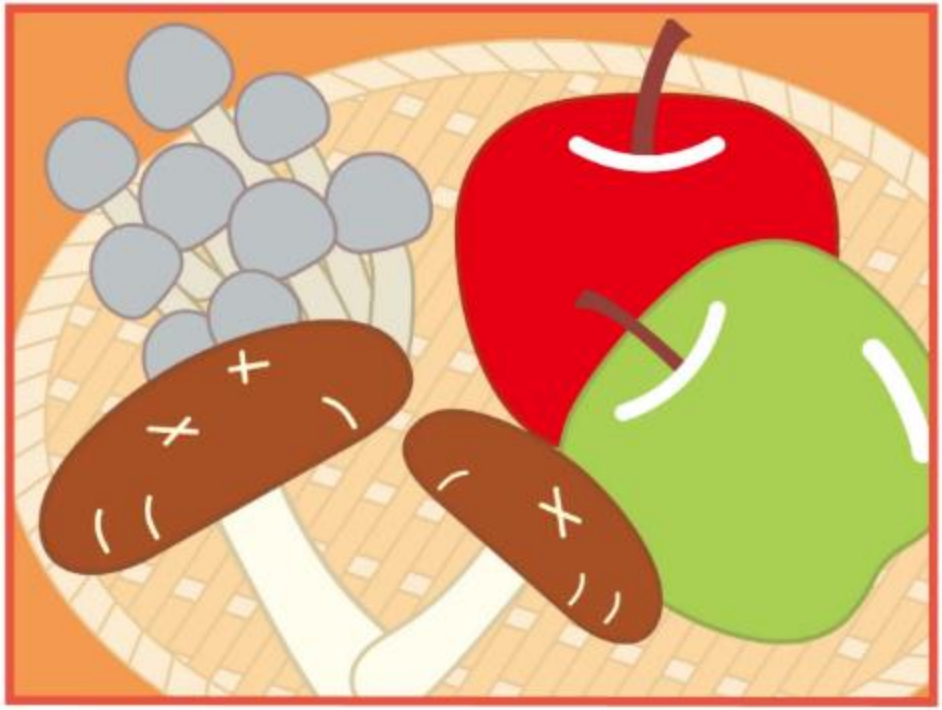
自己紹介

- 宇都宮東高等学校卒業
- 宮城教育大学養護学校教員養成課程卒業
- 病弱特別支援学校に11年勤務（2年海外）
- 青年海外協力隊で2年間マレーシアに赴任
- 肢体不自由特別支援学校に17年勤務
- 知的障害特別支援学校に10年勤務
- 特別支援教育コーディネーターに17年
- 早期教育相談（療育・相談）に22年
- 梅永研究室に1年間内地留学
- 特別支援教育研究所凸DECO起業(R5.6)

特別支援教育クイズ

間違い探し（間違いは三カ所）





読売新聞オンライン（2024.9.21）より抜粋

特別支援教育とは（間宵の見解）

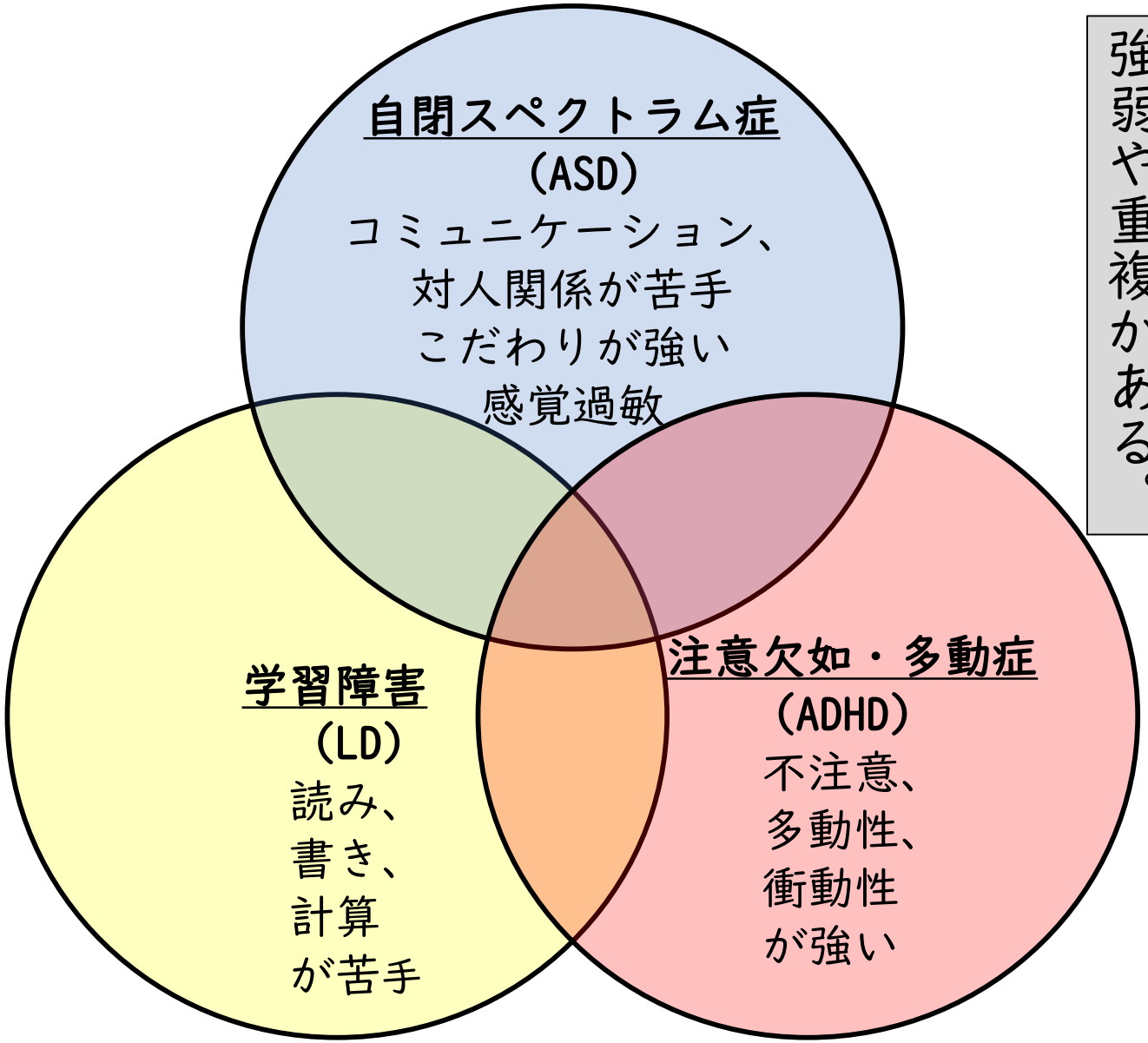
発達障害や境界知能、ギフテッドを含めた配慮が必要な子ども達の健やかな成長や自立、社会参加に向けて、適切な指導と必要な支援を行うと同時に、校内外の関係者とのチームワークによって、一人一人のニーズに合った教育を実現する取り組み。

もっと幅広く！
もっと柔軟に！

発達障害とは三障害の総称

生活するうえで、本人や周囲に支障がある場合に「障害」として診断される。

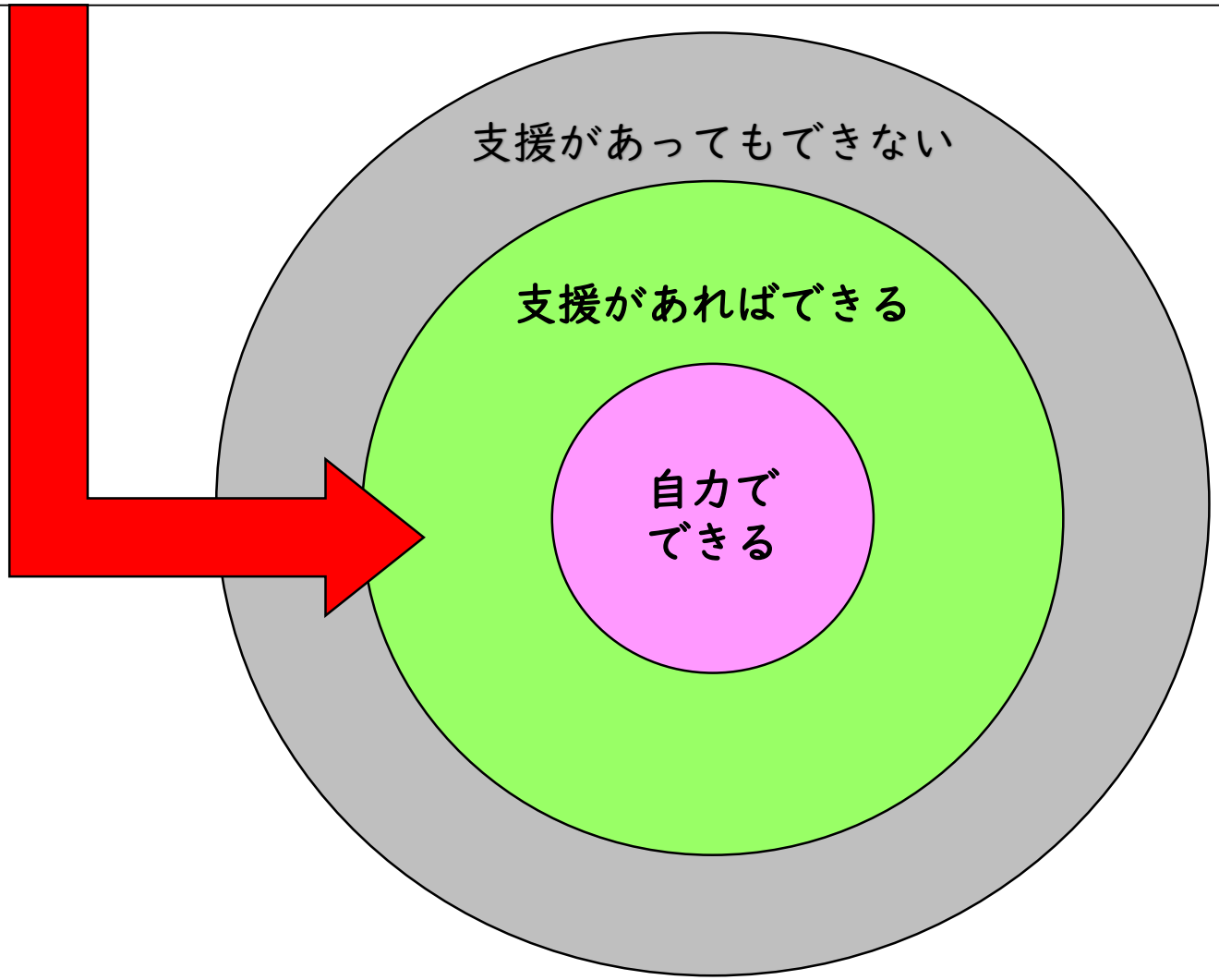
強弱や重複がある。



その他の症状：不器用、体温調節困難、睡眠障害、便秘・下痢、疲れやすい、空腹・疲労の不感、頭痛、てんかん等

子育てや教育で大切なこと

発達の最近接領域（ヴィゴツキー）とは？



問題行動を氷山モデルで考える

集団活動を嫌がる

- 大人数が苦手
- うるさいのが苦手
- 全体への指示が聞き取れない
- 何をしていいのかわからない
- 一人で遊びたい
- 選択的注意ができない
- ルールや順番がわからない
- 集団で行う事に興味がない
- 不安や緊張が強い

応用行動分析
(Applied Behavior Analysis)

・行動は環境との相互作用から生じる。

・行動の前後に起こっている出来事を知り、それらを変えていくことで行動は変容する。（ABC分析）

応用行動分析
(Applied Behavior Analysis)

【問題行動のとらえ方】

・問題行動は、
本人と環境との相互作用から生じる。

・問題行動は、
コミュニケーションの手段である。

・問題行動は、
意味や目的（機能）がある。

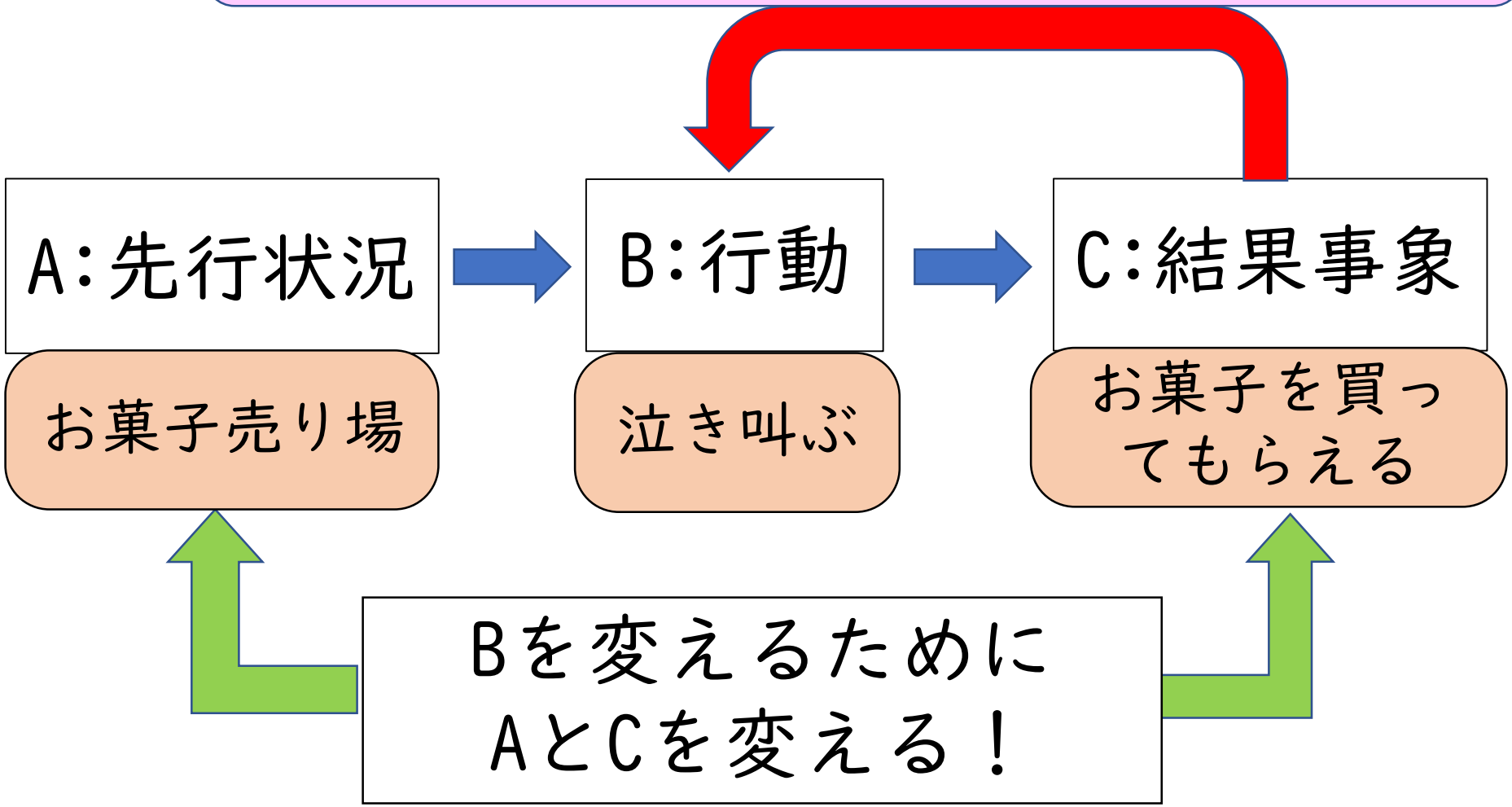
応用行動分析
(Applied Behavior Analysis)

【ABC分析】

・行動（Behavior）の
前の先行刺激（Antecedent）と
後の結果事象（Consequence）を
操作することによって、適切な行動を教えたり、不適切な行動を修正したりする。

応用行動分析（ABC分析）

親や先生の対応が、その行動を増やしたり
減らしたりする大きな原因になっている。



問題行動の機能とは？

1　その行動は、ひとりぼっちでいる場合に、起こるか？
2　その行動は、難しいことを要求された後に起こるか?
3　その行動は、自分に話しかけてもらえない場合に起こるか？
4　その行動は、おもちゃや食べ物が欲しいとき、あるいは人に何かやってもらいたいことがある時に起こるか？
5　その行動は、周囲に人がいないとき、長時間にわたって反復的に起こるか？

問題行動の機能とは？

6　その行動は、何かするように求められると起こるか？
7　その行動は、子どもへの注目を止めてしまうと、起こるか？
8　その行動は、好きなおもちゃや食べ物を取り上げられたり、やってあげていることを止めてしまうと起こるか？
9　子どもは、その行動をやっているとき、楽しそうか？

問題行動の機能とは？

10　その行動は、何かをさせられそうになったときに、相手を困らせたり、いらだたせようとして起こるか？

11　その行動は、自分に注目してもらえないときに、相手を困らせたり、いらだたせようとして起こるか？

12　その行動は、子どもが欲しがるおもちゃや食べ物を与えられたり、して欲しいことを満たしてもらえれば、ほんのしばらくはおさまるか？

問題行動の機能とは？

13　その行動が起こっている時、子どもは機嫌がよく、周囲で起こっていることには無頓着か？

14　その行動は、子どもに何かを促したり要求するのをやめると、１分から５分くらいはおさまるか？

15　その行動は、相手を自分のそばに引きとめておこうとして起こるか？

16　その行動は、子どもが自分の思い通りにならないときに起こるか？

問題行動の機能とは？

■ 1、5、9、13　→自己刺激機能
■ 2、6、10、14　→逃避機能
■ 3、7、11、15　→注目要求機能
■ 4、8、12、16　→物や活動の要求機能

【Motivation Assessment Scale】Durand
『困った行動の理解と指導』井上雅彦氏より

集団活動を嫌がる子どもへの対応

【基本的なスタンス】

・All or Nothing（100か０）の考え方をしない。参加できる部分から参加する。
・無理強いはしないが、諦めもしない。
・参加が困難なら、見るところから始める。
・指示は肯定形で出す。（否定形×）
・出来たことを具体的にほめる。
・長い目で見る。（年齢で決めない）
・周囲の子には、その子なりに頑張って、「学習している」ことを伝える。

集団活動を嫌がる子どもへの対応

・大人数が苦手。
・その子にとっては、その集団が大きすぎる可能性がある。 ・集団の端の方なら参加しやすくなる。 ・大勢の子どもの激しい動きが苦手な場合は、最前列の端で参加する。 ・信頼関係のある保育者や頼りになる友達が側にいれば、参加しやすくなる。 ・１対１や小集団活動を別に心がける。 ・避難できる場所を確保しておく。

集団活動を嫌がる子どもへの対応

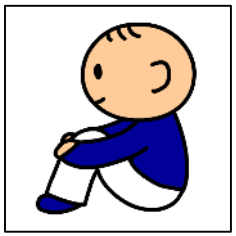
・うるさいのが苦手。

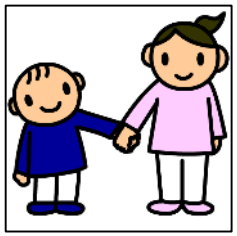
・集団の端の比較的静かな場所で参加する。
・マイクのボリュームを下げる。
・全員で大声を出す活動を控える。
・窓やドアを開けて反響を抑える。
・耳塞ぎをしていいことを伝える。
・耳栓やイヤーマフを使用する。
・避難できる場所を
　確保しておく。

集団活動を嫌がる子どもへの対応

・全体への指示が聞き取れない。

・全体に大事な指示を繰り返して伝える。
・先生が側にいて、個別に指示を伝える。
・視覚的な指示を用意する。
・ジェスチャーを使う。





・何をしていいのかわからない。

・分かりやすい見本を見せる。
・先生が側にいて、一緒に行う。
・上手な子どもの側にいて、手本にする。

集団活動を嫌がる子どもへの対応

・一人で遊びたい。
・集団で行う事に興味がない。

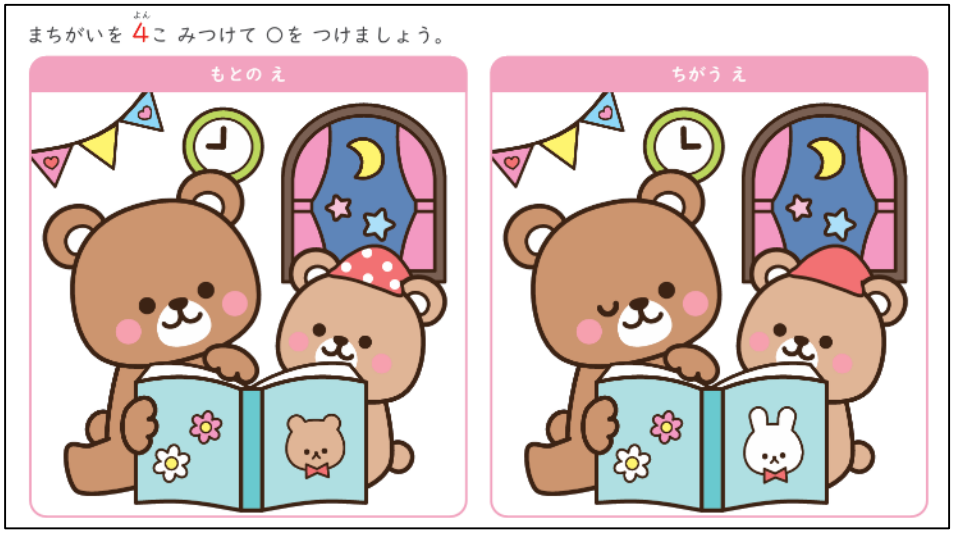
・集団活動の中に、その子の好きな物を持ち込む。（音の出ない物）
・参加できそうな部分だけ参加する。

・集団活動に、その子の好きな要素を落とし込む。（電車、恐竜、アニメ等々）
・避難できる場所を確保しておく。

集団活動を嫌がる子どもへの対応

・選択的注意ができない。

・今すべきことを、言葉で伝える。
・今すべきことを、ジェスチャーや絵カードを用いて伝える。
・同じ物探しや間違い探しで練習する。



集団活動を嫌がる子どもへの対応

・ルールや順番がわからない、守れない。

・ルールや順番を見て分かる形で伝える。
・ルールや順番を守れた時にほめる。
・側の先生が一つ一つ教える。
・順番を示す足型を使う。

集団活動を嫌がる子どもへの対応

・不安や緊張が強い。

・その子が安心できる物を持ち込む。

・参加できそうな部分だけ参加する。
・集団活動に、その子の好きな要素を落とし込む。（プリンセス、サンリオ等々）
・避難できる場所を確保しておく。
・一日のスケジュールを見える形で伝えておく。（見通しをもたせてあげる）
・勝ち負けだけではない楽しみを伝える。
・好きな友達の側で参加する。

「気になる子ども」の保護者との連携

■「気になる子ども」の様子

①運動や行動に関すること

②生活習慣に関すること

③対人関係や遊びに関すること

④言語・コミュニケーションに関すること

⑤情緒や感情、感覚に関すること

「気になる子ども」の保護者との連携

①運動や行動に関すること

- 歩き方が不器用で、よく転ぶ。
- 椅子に座る姿勢が崩れやすい。
- じっとしていることが出来ない。
- 指先が不器用で、絵画や制作を嫌がる。
- 様々な刺激に引っ張られ、集中出来ない。
- 衝動的に動いたり、発言したりする。
- なくし物や落とし物、忘れ物が多い。
- 切り替えが困難。
- 初めての事に参加できない。

「気になる子ども」の保護者との連携

②生活習慣に関すること

・夜更かしで、朝起きられない。
・同じ服を着たがる。
・歯磨きや散髪を嫌がる。
・登園や母子分離を嫌がる。
・だらしない格好をしている。
・偏食が激しく、食べられない物が多い。
・おむつに排泄することにこだわる。
・活動の準備や片付けが出来ない。
・道順ややり方、持ち物等へのこだわり。

「気になる子ども」の保護者との連携

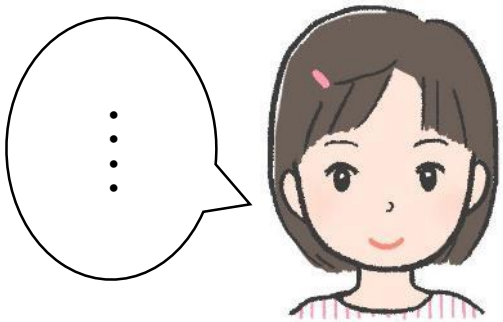
③対人関係や遊びに関すること

・他の子どもと遊ばない。
・友達とトラブることが多い。
・一番でないと気がすまない。
・ゲームに負けると癇癪を起こす。
・ミニカーやフィギアを並べて遊ぶ。
・噛む、叩く、物を投げる等の行動が出る。
・相手の気持ちが分からない様子がある。
・砂遊びや水遊びに熱中する。
・何でも口に入れてしまい、食べてしまう。

「気になる子ども」の保護者との連携

④言語・コミュニケーションに関すること

・発語の遅れや不明瞭な発音がある。
・園では全くしゃべらない。
・一方的に話しをする。
・独り言をずっと話している。
・指示が分からず、行動できない。
・否定語やダメの意味が分からない。
・何度注意しても、同じことをしてしまう。
・エコラリア（即時性・遅延性）が出る。
・傷つく言葉や暴言を口にする。



「気になる子ども」の保護者との連携

⑤情緒や感情、感覚に関すること

・思い通りにならないと癇癪を起こす。
・怒り等の感情コントロールが苦手。
・叱られているのに、笑っている。
・号泣していたのに、ケロッとしている。
・不安や緊張が強い。
・大きな音に耳塞ぎをする。
・抱っこやおんぶをせがむ。
・ずっと指しゃぶりをしている。
・ベタベタ等の特定の感触を嫌がる。

「気になる子ども」の保護者との連携

■「気になる子ども」への対応

①プラス面を見つけてほめる。

②特別支援教育の知識や技術を使ってみる。

③記録を取り、園全体で考える。

④個別対応も視野に入れる。

⑤専門機関に相談する。

「気になる子ども」の保護者との連携

①プラス面を見つけてほめる。

・動き回る→元気で活動的
・切り替えがきかない→集中力がある
・普通の行動は、良好な行動。
・たまたまでも出来た行動をほめる。
　例：靴を靴入れに入れられて、偉いね。
・話しを聞いてくれて、ありがとう。
・頭にきたのに、叩かないで我慢できたね。
・姿勢や努力をほめる。
　例：片付けようとしたんだよね。

「気になる子ども」の保護者との連携

②特別支援教育の知識や技術を使ってみる。

・構造化（視覚化）する。
（見えないものを見えるようにすること）
①空間：日程、机上学習、遊び、食事、
午睡、落ち着くスペース
②時間：カレンダー、日程
③活動：ワークシステム：作業の明確化
④言語表現：簡素、具体的、肯定的
実物、絵カード、サイン、
ジェスチャー

「気になる子ども」の保護者との連携

②特別支援教育の知識や技術を使ってみる。

- コミック会話で他者の思い等に気づく。
- 問題行動を氷山モデルで考える。
- ABC分析で問題行動に対応する。
- セロトニン５とドーパミン５（平山諭氏）

①ほめる	①運動
②微笑む	②見通しを持たせる
③話しかける	③目的を伝える
④触る	④高得点
⑤見つめる	⑤変化をつける

「気になる子ども」の保護者との連携

③記録を取り、園全体で考える。

- どんな場面で問題行動を起こしやすいか。
- 相性のいい先生は誰で、何が違うのか。
- 相性の良い子と悪い子は誰か。
- 上手くいかなかった関わり方は。
- どんな関わり方だとうまくいくか。
- 効果的な支援グッズはあるか。
- 曜日や活動内容で違いはあるか。
- 天気や気温、気圧は関係していないか。
- 調子が良い日と悪い日の違いは何か。

「気になる子ども」の保護者との連携

④個別対応も視野に入れる。

- その子にとっての最近接領域を考える。
- その子用の目標や活動内容を考える。
- 集団活動の中での個別支援を考える。
- 支援グッズや支援方法を使ってみる。

「気になる子ども」の保護者との連携

⑤専門機関に相談する。

- 宇都宮市子ども発達センター
- 栃木県立リハビリテーションセンター
- 保育所等訪問支援事業
- 発達障害者支援センターふぉーゆう
- 児童相談所
- 特別支援学校のセンター的機能

「気になる子ども」の保護者との連携

■「気になる子ども」の保護者への伝え方

①子どもとの信頼関係が出来てから伝える。

②その子が困っていることと有効な対応
　方法を具体的に伝える。

③家での対応方法を尋ねる。

④障害名を口に出さない。

⑤家庭と園での行動の違いを説明する。

「気になる子ども」の保護者との連携

①子どもとの信頼関係が出来てから伝える。
・保護者との信頼関係構築には時間がかかる。バス登園の場合はなおさら。 ・子どもとの信頼関係が出来、子どもから肯定的な園情報（特に担任）が保護者に入っていれば、保護者は園を信頼する。 ・PRIDEスキル（ほめる、繰り返す、真似る、行動の説明、楽しむ）とセロトニン５、ドーパミン５で、子どもと信頼関係構築を。

「気になる子ども」の保護者との連携

②困っていることと有効な対応を伝える。

・園や先生、友達が困っているという雰囲気を出さない。
・子どもが困っているところを見抜き、そこを支援する具体的な対処に取り組む。
・具体的な支援を通して子どもが過ごしやすくなると、先生への信頼度は向上する。
・有効な対応方法は、「特別支援」であることが多い。

「気になる子ども」の保護者との連携

③家での対応方法を尋ねる。
・家や外で、その子が困っていることはないかを尋ねる。 ・家や外で、家族が困っていることはないかを尋ねる。 ・どんな方法で対応しているかを具体的に聞き、保護者の対応方法は尊重する。 ・互いにより良い対応方法を教え合うというスタンスで臨む。

「気になる子ども」の保護者との連携

④障害名を口に出さない。

・診断名は医師にしかつけられないので、軽々しく障害名を口に出さない。

・効果的な対応方法以外に、安心して過ごせる環境設定について言及する。

「気になる子ども」の保護者との連携

⑤家庭と園での行動の違いを説明する。
・家庭と園との環境の違いを説明する。 ・家庭と園での様子が違うのは、当然であることを説明する。 ・同年齢同士の対人関係が一番難しいことを説明する。 ・家庭も園もその子にとっては大切な場であることを説明する。 ・互いに協力する事の大切さを説明する。

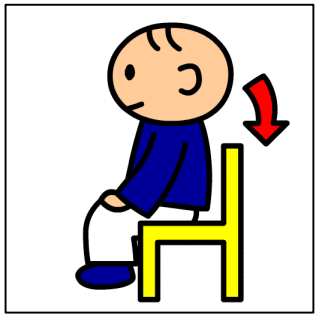
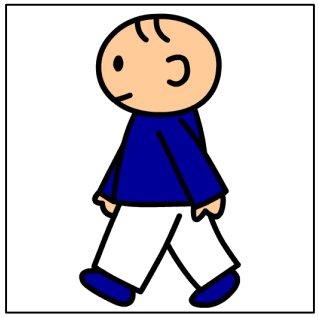
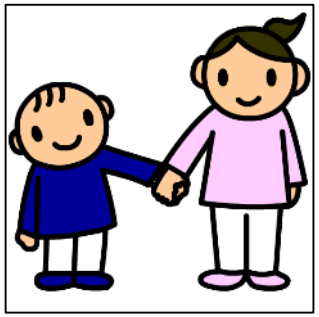
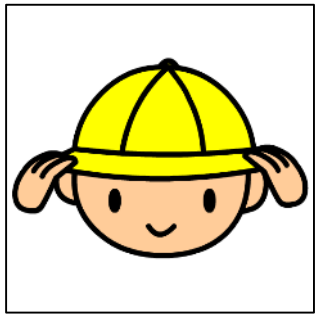
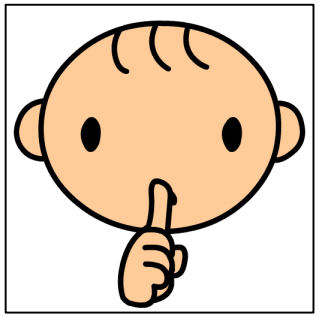
まとめ

・子どもの行動には必ず意味がある。
・特別支援教育をもっと多くの子ども達に。
・その子の発達の最近接領域を見極めよう。
・問題行動は本人と環境の相互作用。
・行動改善のために、先行状況と結果事象を変えよう。
・問題行動の機能が何か見極めて対応しよう。
・問題行動を氷山モデルで考えて対応しよう。
・気になる子どもにも特別支援教育の知見を活かそう。
・子どもとの信頼関係構築が全てのスタート地点。
・今までの方法にこだわり、特別支援教育の知見や技法を拒むのは社会的障壁。必要ならどんどん使おう。

おまけ１

■絵カード作製時にお薦めのサイト

・ドロップレット・プロジェクト

■お薦めのイラスト・サイト

・子供と動物のイラスト屋さん（fumira）

・かわいいフリー素材（いらすとや）

おまけ２

うるとらまんめいろ

ウルトラマン迷路

かいじゅうを ぜんぶ やっつけて ゴールしよう!

スタート

ゴール

たからさがしゲーム

	さがすもの	みつけたらシールをはろう		さがすもの	みつけたらシールをはろう
1			6		
2			7		
3			8		
4			9		
5			10		

参考・引用文献

幼児と保育 BOOK
発達に偏りのある子どもへの支援
園での「気になる子」へのかかわり方
著 木原望美
臨床心理士 公認心理師
小学館

特別支援教育に学ぶ
渡辺道治
Michiharu Watanabe
発達が気になる子の教え方
The BEST
こんなときどうする？
不規則発言をされる
授業を妨害される
関係が崩れてしまった…etc
たちまち1000人以上が受講した超人気講座
待望の書籍化！
磨き抜かれた実践をもとにケースごとの最適な対応方法を解説！
東洋館出版社
解説
名古屋市立大学准教授 郡司竜平